

令和 7 年 7 月 16 日

2025 年 7 月 16 日付日本海事新聞にて、フィリピン訓練施設を活用した船員育成の取り組みが紹介されました。

<記事全文>

明海グループ、フィリピン船員育成に重点投資。船隊拡大・品質向上 両立へ

明海グループの船舶管理会社エム・エム・エスは管理船隊の規模拡大と品質向上を同時に実現するため、最大の船員供給国であるフィリピンでの船員育成に引き続き注力する。マニラ近郊で運営する船員研修施設を活用し、自社の船員に乗船前に 1 週間に及ぶ大規模な訓練を実施。IGF コード（国際ガス燃料船安全コード）に準拠した訓練もいち早く始めたほか、電気技師の逼迫（ひっばく）を受けて自前の研修を開設するなど、施設の自営化が機動的な訓練体制構築の基盤となっている。今後も船員教育に重点的に投資し、訓練メニューの更新・拡充を続ける。

エム・エム・エスはフィリピンのマンニング（船員配乗）会社から訓練部門を独立させる形で 2018 年、船員訓練施設の運営会社 MK マリタイムトレーニングセンターを設立。同時に首都マニラから南方へ約 25 キロメートルのカビテ州バコール市に、1 万 7000 平方メートルの敷地を持つ訓練施設を開設した。

同施設は最新の操船・エンジンシミュレーターを導入し、エム・エム・エスのフィリピン人のプール船員約 3500 人に必要な訓練のほぼ全てを自営化。機関監視制御盤の実機を使った電子制御エンジンのシミュレーション訓練などに定評があり、現在は外部船員も含め年間で最大 4000 人規模を受け入れている。

エム・エム・エスは明海グループの保有船・社外船合わせて 100 隻以上の船舶管理を手掛け、船員配乗サービスだけを提供する船舶を含めて 130 隻程度に関与する。フィリピンには船舶管理会社 1 社とマンニング会社 3 社があり、バルカー 13 隻の管理を手掛けている。

■自営施設で差別化

フィリピンの船員訓練施設の自営化から約 7 年が経過し、効果は随所に表れている。



船員が休暇中、次の乗船までに受講する「プレ・ジョイニング・トレーニング」はその事例の一つだ。

エム・エム・エスでは自社のフィリピン人船員に対し、乗船直前のブリーフィングとは別に、平日 5 日間泊まり込みのプレ・ジョイニング・トレーニングの受講を義務付けている。

「他の船舶管理会社やマンニング会社も同種の訓練をされているだろうが、当社ほどの規模で実施しているケースはかなりまれだと認識している。自前の施設があるからこそ、大規模な訓練を効率的に展開できており、船舶管理の質でも一定の差別化ができているのではないか」（現地代表者）

MK マリタイムトレーニングセンターを通じ、新燃料船に配乗する船員の育成体制も自前でいち早く整えた。

昨年 1 月、IGF コード適用船に配乗する船員の訓練プログラムを構築し、同国の海事産業庁（MARINA）から正式な認可を取得。IGF コードが適用される LNG（液化天然ガス）やメタノールなど低引火点燃料船に配乗するフィリピン人船員の育成を急ピッチで進めている。メタノール燃料船の管理については、MR（ミディアムレンジ）型プロダクト船のほかバルカーでも開始している。

明海グループは LNG 燃料を使用する自動車船 2 隻を新造買船することを発表済み。LNG 燃料船は同 2 隻に加えて複数隻の保有・管理を決めており、これらの船舶に配乗する船員の資格取得には一定のめどを付けている模様だ。IGF コード訓練は外部からの引き合いも増えており、受け入れを検討している。

■機動的に訓練設計

自営の船員訓練施設を持つことで、市場環境の変化に機動的に対応した訓練を設計・実施できていることも、エム・エム・エスの強みと言える。

昨年、船員マーケットで需給が急激に逼迫して電気技師の確保が困難になった際には、機器を購入して講師を手配し、電気技師のトレーニングを自前で開設した。エンジンオ





フィサーが対象となるこの取り組みは、自社船員全体のレベルアップにつながっているという。

さらに昨年半ばには、BRM（ブリッジリソースマネジメント）、ERM（エンジンルームリソースマネジメント）の両訓練で日本海事協会（NK）の認証を取得し、前述の「プレ・ジョイニング・トレーニング」に追加して内容を拡充した。

現地代表者はフィリピンで船員育成に注力する意義を次のように語った。

「日本人の海技者が増えていく未来が見いだしにくい中、船隊を長期的に拡大していくには、当社船隊の安全管理手法を熟知したフィリピン人やインド人の船員が、船舶管理監督（SI）として陸上の要職を担っていくことも必要。それに向けては、フィリピンへの投資を継続し、訓練のメニューをアップデートして理想に近付けていく地道な取り組みが鍵になる」

エム・エム・エスの管理船は LNG 船、VLGC（大型 LPG〈液化石油ガス〉船）、コンテナ船、自動車船、木材チップ運搬船、ケープサイズからハンディサイズまでのバルカー、VLCC（大型原油タンカー）、アフラマックスからケミカル船、MR 型/LR（ラージレンジ）型プロダクト船までのタンカーと多岐にわたる。

出典：日本海事新聞

◆記事リンク：<https://www.jmd.co.jp/article.php?no=307002>

